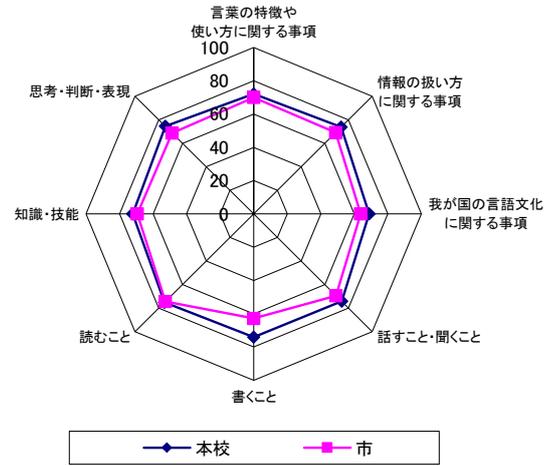


# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.1	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	73.8	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	68.9	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	74.3	69.5	71.5
	書くこと	74.0	62.8	67.1
	読むこと	75.1	74.4	73.7
観点別	知識・技能	72.1	69.4	71.9
	思考・判断・表現	74.5	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

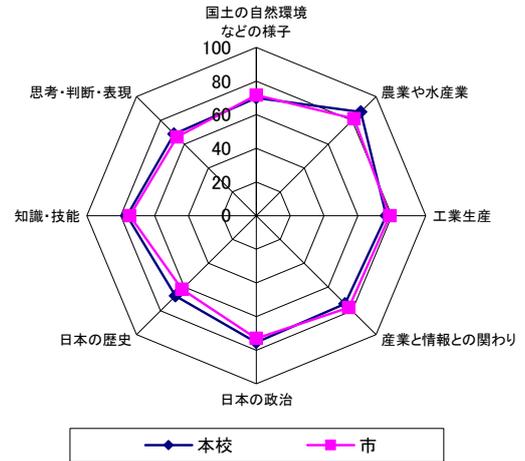
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の正答率とほぼ同じである。6学年配当の漢字の正答率は、平均87.4%と高い。 ●6学年配当の漢字(読み)では88.5%ではあるが、市の正答率より4.3%下回っている。また5学年配当の漢字(書き)では、市の正答率が39.7%と低いが、それより6.9ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字や熟語については、プリントやドリルなどを用いた繰り返しの学習を行うとともに、文章の中で適切な漢字を使えるように習熟を図る。 ・定期的に前学年までの漢字の読み書きを復習する機会をつくる。
情報の扱い方に関する事項	○市の正答率を4.6ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題は、市の平均より7.7ポイント上回っている。	・複数の情報から、課題解決に必要なものを抽出したりつなげたりして、自分の考えをまとめる指導を引き続き行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解する問題では市の正答率を5ポイント以上上回っている	・新出漢字を学ぶ際に、辞書を使って漢字の由来や部首、部分ごとの意味や音についても学ばせていく。
話すこと・聞くこと	○市の正答率を11.2ポイント上回っている。特に、話の内容を捉える問題では、正答率が82.0%であった。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市の正答率を0.5ポイント下回った。	・ICT機器やホワイトボード等を用いた意見交換の場を積極的に設ける。また、自分の立場を明確にしたり、友達の意見を聞いて自分の考えを発表したりするような活動や討論会等を充実させる。
書くこと	○市の正答率を4.8ポイント上回っている。特に、指定された長さで文章を書く問題の正答率は17.0ポイント、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は15.1ポイント、予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率は19.7ポイントと、市の正答率を大きく上回っている。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く問題の正答率は、市の正答率を7.6ポイント上回り、91.8%であった。	・学校課題の研究で行ってきた「読みを深めるために書く」活動を引き続き行っていく。 ・普段の生活において、理由を明確にして自分の考えを話すことを意識付け、書くことにつながるような指導をしていく。
読むこと	○市の正答率とほぼ同じであった。登場人物の心情について描写を基に読み取る問題では、市の正答率を5.6ポイント上回っている。 ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題は、市の正答率を8.2ポイント下回った。	・物語文では、文章をよく読み、叙述をもとにした読み取りを継続して指導していく。 ・国語の時間以外にも、グループや全体で意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる場を積極的に設けるようにする。

# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.0	71.6	67.5
	農業や水産業	87.2	81.5	82.1
	工業生産	76.7	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	74.2	77.2	68.2
	日本の政治	75.4	73.1	77.9
	日本の歴史	67.5	62.0	65.8
観点別	知識・技能	76.3	74.6	74.5
	思考・判断・表現	68.7	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

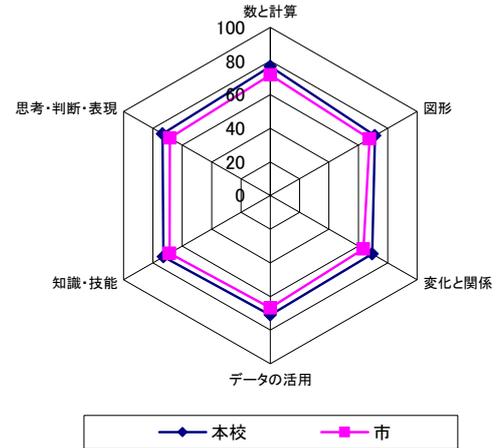
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●領域全体では、市の正答率を1.6ポイント下回っている。特に世界の中の国土「日本の河川の名称と位置」に関する問題の正答率が28.3%で、市の正答率を8.8ポイント下回っている。 ○日本の周辺の海洋名の正答率は90.0%で、市の平均を4.3ポイント上回っている。	・従来の地球儀や地図帳に加えて、一人一台端末を使い、インターネットの地図サイトを活用する。地形や地名に関して得た知識と現地の様子(デジタル)をつなげることで、国土や自然環境に関する理解を深めさせる。
農業や水産業	○領域全体では、市の正答率を5.7ポイント上回っている。どの問題も高い正答率であるが、特に都道府県の位置と農産物の産地の理解に関する問題の正答率が、市の正答率を7.1ポイント上回っており良好であった。	・農業や水産業に従事する人々の思いを大切に授業を展開しているため、これからは農業や水産業と自分たちのくらしとの関わりを感じさせる資料を教材として大切に取り入れていきたい。
工業生産	●日本の輸出品に関する問題は、市の正答率と同等であるが、領域としては、市の正答率を2ポイント下回っている。特に、自動車の出荷の工夫に関する問題(記述式)では、市の正答率を5.5ポイント下回っている。	・社会的な視点、考え方を育てられるように、各種資料を読み取る際に、ポイントとなる点を丁寧に助言する。また、気付いたことを短い言葉でも文章としてまとめる活動を重視することで、表現力を伸ばしていく。
産業と情報との関わり	●領域全体では、市の正答率を3ポイント下回っている。特に、コンビニエンスストアの発注システムに関する問題は、正答率が56.7%であり、市の平均を6.1ポイント下回っている。	・情報を生かす産業について、ICTによる情報収集とその活用方法を深く理解するために、様々な業種における事例を取り上げるようにする。また、インタビューなどをもとに考えを深めさせる。
日本の政治	○市の正答率を2.3ポイント上回っている。特に税金と政治の仕組みについての理解度が高い。 ●基本的な人権の尊重に関する問題の正答率は、市の正答率を6.5ポイント下回っている。	・日々の新聞やニュースなどから政治に関する話題を学級内でできる限り取り上げることで、一層政治への関心を高めていく。それに加えて、自分たちの生活の中で、基本的人権が守られている場面について振り返るような場面を、意識的に提示していく。
日本の歴史	○市の正答率を5.5ポイント上回っている。特に、安土桃山時代以降の問題での正答率が高い。 ●室町時代の文化についての正答率が、市の正答率を8.1ポイント下回っている。	・インターネットを活用して様々な資料を提示し、歴史の多角的な見方を育てたい。また文化財などは、可能な範囲で実物や掲示資料を準備し、理解を深める手立てを講じていく。

# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.8	71.8	76.2
	図形	71.3	67.7	67.8
	変化と関係	69.4	63.4	62.7
	データの活用	71.0	66.7	61.5
観点別	知識・技能	72.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	73.4	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

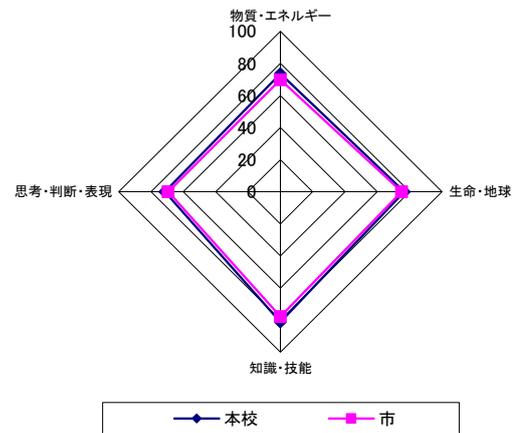
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域全体では、市の正答率を5.0ポイント上回っている。特に小数第一位×小数第一位の計算の正答率は、市の正答率を10.5ポイント上回っている。</p> <p>○分数×分数(約分あり)の計算では、正答率が93.4%であった。</p> <p>●文字の式の問題では、市の正答率と同様かやや低かった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○小数や分数の計算について、ドリル学習をしてきたことが、正答率の高さに結び付いてきたと考えられる。今後もAIドリルや繰り返し計算ドリル・計算プリント等を活用しての着実な指導を続けていく。</p> <p>・□を使って解く問題を復習することで、文字の式の考え方や活用を理解できるようにしていく。</p>
図形	<p>○領域全体では、市の正答率を3.6ポイント上回っている。特に合同な三角形を作図する問題の正答率は90.2%であり、市の正答率を5.0ポイント上回っている。</p>	<p>・定規やコンパスなどの道具を正しく使うことができていると考えられる。今後もこれらの道具を初めて使う時の指導を丁寧にを行い、新たな単元で使う時も再度細かな指導をしていくことを続けていく。</p>
変化と関係	<p>○領域全体では、市の正答率を6.0ポイント上回っている。特に時速を分速に直す問題の正答率は、市の正答率を15.6ポイント上回っている。</p>	<p>・下学年で学習した「時間」「長さ」の単位の学習が定着している成果と考えられる。今後も各学年で身に付けさせるべき基礎基本を確実に定着させるような丁寧な指導を心掛けると共に、スパイラルに学ぶ児童の実態を捉え、日々の指導を充実させていく。</p>
データの活用	<p>○領域全体では、市の正答率を4.3ポイント上回っている。特に折れ線グラフを読み取る問題の正答率は93.4%であり、市の正答率を12.6ポイント上回っている。</p> <p>○帯グラフを読み取って説明する問題では、正答率が49.2%と半数に満たないものの、市の正答率を14.7ポイント上回っている。</p> <p>●ドットプロットやヒストグラムを読み取る問題は、市の正答率を3～4ポイント下回っている。</p>	<p>・日常的に他教科などで使用されるグラフの読み取りは良く定着しているので、引き続きグラフの見方を他教科とも関連させて丁寧に指導していく。</p> <p>・6年生で新たに学習する度数分布でのデータの捉え方を積極的に他教科でも活用し、児童への定着を図っていく。</p> <p>・データを読み取って説明できる児童が半数近くいることから、児童が互いに知識を交流することのできる主体的対話的な学習活動の機会をより多く設定し、説明し記述するスキルの向上を図っていく。</p>

# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.6	69.9	67.8
	生命・地球	76.7	75.1	73.7
観点別	知識・技能	81.2	77.8	78.4
	思考・判断・表現	71.5	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○市の正答率とほぼ同等である。</p> <p>○物のとけ方の内容では、メスシリンダーの目盛りの読み方を問う問題で91.7%、食塩とミョウバンの溶け方を問う問題で78.3%の正答率で、共に市の平均をおよそ6ポイント上回っていた。</p> <p>○物の燃え方の内容では、二酸化炭素が増えたことを石灰水を用いて調べることを指摘する問題で、市の平均をおよそ8ポイント上回る80.0%の正答率だった。</p> <p>●ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推測する問題の正答率が53.3%で、市の平均をおよそ5ポイント下回っていた。</p>	<p>・実験を通して体験的に学習していくことを大切にしながら、今後も実体験を重視した授業を充実させていきたい。</p> <p>・日常生活の中で学習内容に関連するものを紹介することで、普段の生活と結び付けながら理解できるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>○市の正答率とほぼ同等である。</p> <p>○植物の発芽と成長の内容では、対照実験の条件について誤りを指摘する問題の正答率が93.3%で、市の平均をおよそ9ポイント上回っていた。</p> <p>●月と太陽の内容では、観察カードの月の様子から月を観察した時刻を推測する問題の正答率が51.7%で、市の平均をおよそ8ポイント下回っていた。</p>	<p>・実験ができないところに関しては、モデルを使用したり、動画を活用したりしながら、視覚的に分かりやすくなるような授業の工夫をしていきたい。</p>